



ピース! Peace

Team Shiroyama

Peace 飛び交う、楽しい学校をつくろう!

HP <https://www.nagasaki-city.ed.jp/shiroyama-e/>

令和 6 年 9 月 2 日

学校だより 第 7 号

校長 宮田 幸治

「皆が幸せになる 4 つの技」を使って楽しい 2 学期に!

校長の恒例の長期休業中の宿題である「死ぬな! 生きろ! やらかすな!」は、全ての子供たちがしっかりと取り組み、命の危険に関わる事故等に遭うことなく夏休みを過ごすことができていたようです。「命を守り、決まりを守って生活をする」ことは、「楽しい学校づくり」で最も大切なことです。2 学期も学校の約束を意識して学校生活を送ってほしいと願っています。

さて、始業式では、まず「Peace 飛び交う楽しい学校づくり」に向けて 4 つの姿を見せてほしいと話しました。①合言葉をもとに、友達に声掛けをしている ②学校、教室は、明るく楽しい ③平和への思いを発信しようとしている ④城山小学校の子供でよかったと感じているの 4 つです。これは、学校評価でぜひ 100% を目指したい姿でもあります。

続いて、その達成に向けて、「皆が幸せになる 4 つの技」についてお話をしました。①失敗しても大丈夫。やってみようという気持ちをもつ ②どんなことにもありがたい気持ちをもつ ③どんな時も何とかなるとあきらめない ④人と自分を比べずに、あなたらしさに自信をもつ。これは、国の第四期教育振興計画が目指すウェルビーイング教育につながります。ウェルビーイングとは、「体と心と社会のよい状態」のことで、ひと言で言うと「幸せな状態が長続きしていること」です。「平和は城山から」を目指している城山小学校にぴったりだと思います。ご家庭でも大人も子供もぜひ「皆が幸せになる 4 つの技」を繰り返し、幸せを感じてみてください。

「叱り上手のテクニック」

先輩校長からの教え!
第 4 号からの続きです。

前は『情で叱る』というテクニックについて書きました。今回は『知で諭す』をご紹介します。『知』というのは理性のことで、感情とは対照的な位置にあります。感情を揺り動かされた子供は、心が驚き昂ぶり縮こまっていることでしょう。今度は、叱りの照準を心から頭脳へと移していきます。叱り上手な教師は、この『情による衝撃から知による納得』への移行が抜群に上手なのです。子供を落ち着かせ、耳を傾かせるにはテクニックが必要です。大人(教師・親)の顔(表情)が柔らかくなり、声が低くゆっくりと穏やかになると、子供は、こちらを見つめ、うなずくようになります。もう怒鳴られないということを感じていることでしょう。この時点で、子供は「叱られ上手」の片鱗を見せ、大人はアンガーマネジメントができる「叱り上手」に近づいているように思えます。それでも、ここからが叱り上手の腕の見せ所です。「なぜ、そうしてはならないのか。」という子供の素朴な疑問を解きほぐします。子供がわかり納得するまで、あたたかく、ゆっくりと教え諭します。「なぜ?」が分かったときに、子供は初めて「悪かった。」という気持ちもちます。子供が悪かったと気付いたことは、その表情ですぐに分かります。ここで、「よく気付いたね、えらいね。」と褒めることもできます。大人には、ますます余裕が生まれ「叱り上手」の域に達します。すると子供は、ぽつぽつと思いを言葉で伝え始めます。その中には、こちらも知らなかったような事実や思いも含まれます。子供は言い訳をやめ、頭の中で状況を整理し、反省を始めます。

子供が「悪かった。」と反省した後に行うのは「挽回」です。いつまでも過ちに止まらず、先へと進むのです。子供の「挽回したい。」という気持ちを共有・共感し、叱られたこの最悪の状況から脱出します。